

授業・講演:活動内容

ACTIVITIES

HOME > 授業・講演:活動内容

各授業では発想力や決める力というテーマに沿って、さまざまな題材が登場します。街の写真だったり紙コップだったりなぞなぞだったり。それを自ら考え、チームで議論し、発表する。それを数分間サイクルでどんどん繰り返していきます。だから飽きない、だから身につくのです。

授業の特長はズバリ
「楽しさ」と「緊張感」。

新しい思考法が身につく行動に繋がるには、感動と繰り返しが必須です。ただ人の意見を聞いていてもダメ、ただ正解を聞いてAHA!と感動するだけでも足りません。一人一人がじっくり考え、その上で議論を拡げていくことで学びは何倍にもなります。

面白く印象的な題材での「発見」する目の育成と、そこからどんどん深く原因や仕組みを追究する「探究」の姿勢を子どもたちに！



プログラム例 | [1. 参加型「決める力」講義](#) | [2. 参加型「発想力〜カタチ編」講義](#) | [3. 講演型「ヒマと貧乏とお手伝い」講義](#)

1. 参加型「決める力」講義

➡ 講義概要

時間	90分
対象者	中学高校・大学生
目的	意思決定の仕方、発展的な議論の仕方学び、日常に活かす。
特徴	戦略的な意思決定の枠組みである「重要思考」を用いる。複数回、ケースによる訓練を行うことで技の習得が図れる。
形態	参加型
目標	意思決定及び議論のための「重要思考」を習得し、日常の問題に対しても適応できるレベルを目指す。
内容	題材としては「サバイバル(遭難時の優先順位付け)」ケースを用いる。意思決定に関する講義を15分程度行った後、ケース①を行う。個人、及びチームでの意思決定を順次行い、チーム討議の結果を発表する。その採点を行なうと同時に、「重要思考」のやり方、と討議プロセスを解説する。その後、類題であるケース②を同様に行い、各チームの議論内容を論評し終了する。

➡ タイムスケジュール

0:00	オリエンテーション アイスブレイク	チーム内で自己紹介	
0:05	講義：決める力について ・道路の話 ・ヒトの意思決定力の話	各国の道路の形状から、意思決定力について述べる 決めて実行するための3つの壁	
0:15	サバイバルケース① 墜落 ①の発表 ①の解説	4頁の課題を読み、まず個人での優先順位付け(7分) チームで討議しチームとしての優先順位付け(10分) 代表者が結果を黒板に書く 適宜指名し、理由等を発表してもらう 正解を発表し自己採点を行なう 高得点者・チームの表彰	
0:45	「重要思考」の解説	ケース①を題材にし、重要思考について解説する ・大事なコト、大戦略、効用、アイテム 同時に、チーム討議のあり方について解説する ・役割分担、時間配分、決め方	
0:55	サバイバルケース② 沈没 ②の発表 ②の解説	2頁の課題を読み、まず個人での優先順位付け(5分) チームで討議しチームとしての優先順位付け(7分) 代表者が結果を黒板に書く 適宜指名し、理由等を発表してもらう 正解を発表し自己採点を行なう 高得点者・チームの表彰	
1:20	総評と質疑応答	フィードバックシートの記入も行う	
1:30	終了		

2. 参加型「発想力～カタチ編」講義

講義概要

時間	80分
対象者	小中学高校・大学生
目的	日常のカタチにひそむヒミツや工夫に気づき、それを探究する姿勢をつける。
特徴	紙コップとハサミという準備物だけで、発見と探究を繰り返す姿勢を学べる。 学んだことをすぐ実践すること、頭だけでなく体を使うことの大事さを体感できる。
形態	参加型
目標	発見することの楽しさ、答えを探さず探究を続けることの大切さを理解する。
内容	題材としては「コップのフシギ」「紙コップのフシギ」等多数の小ケースを用いる。 ヒトの認識に関する講義を30分程度行うがその中でも渋滞、都市の夜景、イロのフシギ等のケースで発見力を高める。 コップのカタチに関して、個人及びチームでその理由を考え、発表する。 紙コップのカタチに関して、個人及びチームでその理由を考え、発表する。 その後、実際に紙コップをハサミで加工することでその探究を進める。

タイムスケジュール

0:00	オリエンテーション アイスブレイク	チーム内で自己紹介	
0:05	講義：発想力について ・色々な渋滞 ・都市の夜景 ・ヒューリスティック・バイアス ・ノーマルシー・バイアス ・錯視問題 ・イロのフシギ	これらの中から時間に応じて2～3を紹介し、ヒトの認識のフシギを説く	
0:25	ワークショップ1：円柱を探せ コップはなぜ円柱か コップはなぜ下がすぼまっている	身の回りのものから、円柱状のモノを挙げる 各自で考え(3分)、個数を競う。一部発表 まず個人で考え(2分)、チームで議論する(5分) 適宜指名し、理由等を発表してもらう 正解を示した後、更に、多様なコップの形を見せる 各自で考え、発表してもらう 手元の紙コップで体感させ、もう一度考え、発表	
0:50	ワークショップ2：紙コップのフシギ 紙コップ実験 フシギの解説	紙コップのフシギを2つ、見つけ、その理由を考える まず個人で考え(2分)、チームで議論する(5分) 何人かに発表してもらった後、ハサミでの「実験」を促す 途中で対照実験の仕方を説明する 何チームかの発表後、正解を解説する	
1:10	総評と質疑応答	フィードバックシートの記入も行う	
1:20	終了		

3. 講演型「ヒマと貧乏とお手伝い」講義

⇒ 講義概要

時間	80分
対象者	幼・保育園児、小中高校生の保護者
目的	子どもたちの生きる力を育むために、親として与えるべき「ヒマと貧乏とお手伝い」の重要性を示す。
特徴	携帯電話問題やお手伝い等、三女の父親としての実体験を踏まえた実践論。 新卒採用者としての観点から見た就職力にも言及。
形態	講演型
目標	「ヒマと貧乏とお手伝い」の大切さを理解し、実践を決意すること。
内容	世界から見た日本、企業人事採用者から見た若者たちの現実と未来を語る。 また、各種調査や実体験を元に、お手伝いや、自由と制限の与え方が、子どもたちの「生きる力」を伸ばすために以下に重要なことを示す。

⇒ タイムスケジュール

0:00	自己紹介	自己紹介
0:05	世界を歩こう ・道路 ・言葉 ・文化 ・未来	これまで、20ヶ国以上を訪れ、40ヶ国以上の友人たちとの交流を通じて分かったこと 未来を生きる子どもたちにとっての示唆
0:15	最近多い新入社員	某社人事部長の嘆きと発見
0:20	お手伝いの効用と現実	お手伝いの学力、生きる力、正義感への効果 長岡市の取り組みと調査結果
0:35	ヒマと貧乏の効用と現実	ヒマと貧乏がなぜ大事か 阻害するもの
0:40	子どもの頃の私	得意だったこと、不得意だったこと
0:48	まとめ	お手伝いマトリクス
1:10	総評と質疑応答	フィードバックシートの記入も行う
1:20	終了	